

隅田川散歩 (四) 浅草から両国

長尾 進一郎

隅田川の起点である北区の岩淵水門から、下流に向けて歩いて来た。一二番目の橋、桜橋は隅田川で唯一の歩行者専用橋で、上から見るとX型をした珍しい姿である。この辺りから橋と橋の間隔が短くなって、街の中心に近づいてきた感じがする。東武伊勢崎線（スカイツリーライン）の浅草駅から出発したばかりの特急電車がゆっくり鉄橋を渡っている。

言問橋西方の言問通りと、次の吾妻橋に続く雷門通りに挟まれた、南北数百メートルの範囲が浅草の中心だ。雷門、仲見世通り、浅草寺、浅草神社、伝法院、花やしきなどの観光スポットが並んでいる。浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩像は、飛鳥時代に隅田川で漁師の網にかかった仏像を祭ったと伝えられる。言問橋から南東に向かえば、程なく東京スカイツリーの足元に着く。

浅草から両国にかけての隅田川沿いの一帯は、古くから江戸の名所として賑わって来た。さすがにこの付近ではスーパ―堤防を作る土地は無いらしく、防潮堤の内側の川べりにテラスを整備して川に親しめるようになっていた。駒形橋、厩橋と南に辿り、一七番目が蔵前橋。戦後しばらく、この橋の西側にあった蔵前国技館で大相撲が行われていて、家族で見に来たことがある。館内では力士と観客の通路が共用で、鼻肩の力士を間近で見ることができた。昭和五九年に両国国技館が完成し、大相撲はそちらに移った。

江戸幕府は防備上、隅田川への架橋を千住大橋のみに限定していたが、一六五七年の明暦の大火で多くの江戸市民が逃げられずに犠牲となったこともあり、第二の橋として両国橋が架けられた。名称は武蔵と下総に跨っていることに由来する。

両国橋を右岸の台東区側に渡ると、隅田川に合流する神田川に架かる柳橋が見える。この辺りはかつて花街で、江戸後期から昭和にかけて栄えたが、昭和三〇年代以降、隅田川の防潮堤が出来て川の風景から遮断され、衰退に向かったようだ。現在は屋形船を営業する船宿等があり、船が出番を待っている。佃煮の製造元もあり、昭和の雰囲気が残っている街だ。